

## 細田守監督年表

※公開館数はスタート時 ※満年齢

1967	富山県に生まれる	2003	36歳 『明日のナージャ』【演出】オープニング&エンディング映像演出、各話演出
1979	12歳 小学校の卒業時、アニメーションの監督を将来の夢として記す 中学校入学。画家を志し、風景画に熱中		村上隆作品『SUPERFLAT MONOGRAM』【監督】 『66/The Creatures from Planet 66～Roppongi Hills Story～』【監督】
1982	15歳 約2分半のペーパーアニメーションを自主制作、中学の文化祭で上映	2006	38歳 『時をかける少女』【監督】(7月公開) 筒井康隆による古典的ジュブナイル小説、初のアニメーション映画化。当初6館の単館上映からロングランとなり、18.6万人を動員。世界中の映画祭にも招聘され、内外の認知度が向上
1983	16歳 角川映画『少年ケニヤ』(1984年公開、大林宣彦監督)宣伝用イベントに上記アニメを応募して合格。上京を薦められるが学業を優先	2009	41歳 『サマーウォーズ』【監督】(8月公開) 初のオリジナル原作を手がける。青春の恋愛と田舎の大家族とインターネットを重ね合わせた意欲作。公開館数127、動員数123万人と驚異的な勢いで上映規模が拡大
1986	18歳 金沢美術工芸大学美術工芸学部美術学科絵画専攻油絵入学	2011	43歳 齋藤優一郎プロデューサーとともにアニメーション映画制作会社スタジオ地図を設立(4月)。アニメーション映画未開の領域を拓くという意味が込められている
1991	23歳 卒業後、東映動画(現:東映アニメーション)にアニメーターとして入社	2012	44歳 『おおかみこどもの雨と雪』【監督】(7月公開) オリジナル原作に加え、脚本と原作小説も手掛ける。公開館数333、動員344万人。「母と子育て」という普遍的題材と先鋭的な内容が広く訴求して大ヒット。現存する世界最古の映画製作配給会社Gaumontに注目される
1995	28歳 社内で演出部門の採用試験が初めて実施され、合格。以後、演出家となる	2015	47歳 『バケモノの子』【監督】(7月公開) 原作・脚本・原作小説も手がけたエンターテインメントにして集大成。公開館数355、459万人を動員し、2015年に封切られた邦画の興収第1位に。Gaumontのフランス配給を含め、49の国と地域で配給された
1999	32歳 『劇場版デジモンアドベンチャー』【監督】 3D立体視に対応したフルCG短編映画(遊園地等向け)を数作監督し、デジタル映像技術に触れる		
2000	33歳 『劇場版デジモンアドベンチャー ぼくらのウォーゲーム!』【監督】 本作を観た現代美術家 村上隆氏からの指名で後に2作の短編を監督 東映アニメーションよりスタジオジブリに出向		
2002	34歳 東映アニメーションに復帰(4月) 『おジャ魔女どれみドッカ〜ン!』【演出】第40話・第49話 本作の映画的演出が、マッドハウス(当時)の丸山正雄プロデューサー(現・スタジオM2 代表取締役)の目に留まり、『時をかける少女』につながる		